



梅雨後半の高温多湿により、輪紋病・炭そ病等主要病害の果実感染拡大が心配されます。この期間は特に予防散布を徹底してください。また、ここまでの少雨・乾燥状態によりシンクイムシ類の早期多発が心配されます。密度が低いこの時期から防除を徹底してください。

りんご 7月上旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期：7月5日 ～ 10日

散布薬剤：水 100ℓ

展着剤 10ml

劇 バイスロイドEW 50ml (7日前、4回) *注意事項①参照

ナリアWDG 50g (前日、3回) *注意事項②参照

スイカル 100g

散布量：10a 当り 600ℓ

対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

● 散布日：7月 日

● 散布量 ℓ

◆ 注意事項

- ① バイスロイドEWは劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。
- ② ナリアWDGは、ピオーネ・サニールージュ等に薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。
- ③ 薬液が園全体にタツプリかかるように散布し、死角がないように注意する。過繁茂状態の園では、徒長枝切り等の管理を散布前に実施する。
- ④ カルシウム剤「スイカル」の1000倍は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので必要により加用する。スイカルに代えて、ストピットⅡの500倍を使用してもよい。

◆ 苦土・マンガン補給対策：葉面散布剤グリーンデイズ1,000倍を加用する。(500ℓ当り745円)

◆ 枝らん病・褐斑病対策：トップジンM水和剤1,000倍(前日、6回)を加用する。

◆ 輪紋病・炭そ病対策：ICボルドー412の33倍を6月末に特別散布する。ただし、つがる等の早生種にはボルドー液は散布しない。

◆ りんご7月中旬の特別散布及び次回薬剤散布情報は次頁をご覧ください。

梅雨後半は、輪紋病・炭疽病・褐斑病の最重要防除期です。急激な高温多湿で病害の感染が一気に拡大する恐れがあります。輪紋病・炭疽病・褐斑病の発生が心配される園では、今回の特別散布を実施し、病害の予防に努めてください。

りんご 7月中旬の特別散布

● 散布日: 7月 日

● 散布量 リットル

◆ 散布時期: 7月12日 ~ 17日 *注意事項①参照

◆ 散布薬剤: 水 100 リットル

展着剤 10ml *注意事項②参照

オーソサイド水和剤80 125g (14日前、6回) *注意事項③参照

◆ 散布量: 10a 当たり 600 リットル

◆ 対象病害虫: 輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病、(ハダニ類)

◆ 注意事項 *必ずお読みください。

- ① 前回 (7月上旬の定期散布) から7日後を目安に散布する。
- ② 固着性展着剤のアビオンEの1000倍 (100 リットルに100ml) を使用すると薬液付着効果が高まる。
- ③ オーソサイド水和剤80に代えて、オキシラン水和剤500倍 (14日前、4回) でもよい。
- ④ ハダニ類対策: 7月下旬 (第9回) 散布予定のスターマイトフロアブル2,000倍 (前日、1回) を繰り返して今回の薬剤散布に加用する。尚、スターマイトフロアブルに代えてダニサラバフロアブル1,000倍 (前日、1回) でもよい。

◆ 次回の定期薬剤散布 (梅雨明け後) は、7/20~25頃の予定です。

ハダニ類やシンクイムシ類の最重要防除期です。梅雨明け7日以内に確実に散布するように予め計画してください。

参考資料: 殺ダニ剤の選択

薬剤名	倍率	使用基準	使用回数	IRACコード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
オマイト水和剤	750	3日前	1回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1回	23	○	○	○	○	△
スターマイトフロアブル	2000	前日	1回	25	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2回	25	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1回	25	○	○	○	○	○